

3 平成 23 年度 研究主題

平成 23 年度 研究主題

「ひろしま型カリキュラムを活用し、言語活動の充実をめざして

～『いいところ見つけ!』カードを活用した開発的生徒指導を通して～」

(1) 研究主題設定の理由

これまで本校では、「思考力・判断力・表現力」を向上させるための授業改善を行ってきた。また、ひろしま型カリキュラム言語・数理運用科の開発校となり、言語・数理運用科の授業を通して各教科の学習形態に工夫を凝らしたり思考を深める発問の工夫をしたりと授業づくりに力を入れてきた。さらに研究授業で、生徒のワークシートから評価基準について全員で検討を行い、授業の内容を協議するだけでなく「目標と指導と評価の一体化」による授業づくりを意識した協議会を行ってきた。そして、過去5年間の校内研修会や協議会を通して、学習者である生徒の学習状況や変容を正確に見取ることの大切さ、あらゆる場面において生徒に返す評価「ほめ・励まし」の重要性に気付かされた。そこで今年度は、これまで継続してきた「目標と指導と評価の一体化」による授業づくりを行う中で、言語活動の充実を図り「思考力・判断力・表現力の向上」を目標とした。

生きる力の知の側面である確かな学力を定着に向け、「思考力・判断力・表現力の向上」を達成するために言語活動を充実させた学習指導や授業展開を立案し、授業中に目標を達成できた生徒への評価（「ほめ言葉」）や目標の達成へと方向付ける形成的な評価（「励ましの言葉」）を駆使することで、生徒の学習に対する意欲的な構えを整え、より良い学力を定着させる授業の展開へと繋げていくこととした。

この学力の定着には、学習の基盤となる学習集団という土壌が耕されていないことには実現は難しい。生徒自身が学習集団の中で認められ、例え間違えた考えを発言しても受け入れてくれる集団、間違えた考えや説明が足りない発言に対して周囲の生徒が補足説明をしてくれる集団、意見に対して反論することができ互いに考えを深め合うことのできる集団でなければ実現しない。つまり生徒自身に自己肯定感が構築された学級をつくっていかなければならない。

また、昨年度の課題から、「学級づくりは担任のしごとであるという意識が強い」ことが挙げられていた。もちろん、学級目標達成に向けて生徒を導いていくのは学級担任が中心となり仕組んでいかなければならないが、担任のみが自分の学級を育てているわけではない。教科担任として責任をもって教科学力を向上させるとともに、五日市南中学校全教職員は生徒たちが15歳になったときの育ちの姿を目標にもち、どの生徒にもあらゆる場面で自己肯定感を育てていかなければならない。

以上のことから、これまでの本校の積み重ねてきた研究をベースとして「思考力・判断力・表現力の向上」を目標とした授業づくりに取り組むことと同時に、担任だけではなく全教職員があらゆる場面で生徒の良いところや成長した部分を見つけ、その良いところをほめ成長した部分を認める開発的生徒指導を中心とした学級づくりに取り組んでいくこととした。

これが、五日市南中学校のとらえる授業・学級づくりである。

**生徒が下校時には、朝よりも少し自信がついていて、少し賢くなっていることを実感し、
「早く学校に行きたい」「学校に行くと元気になる」という五日市南中学校をめざして**